

令和6年度 学校評価書

令和7年3月3日

福生市教育委員会 殿

福生市立福生第四小学校

校長 南方 孝之 印

1 今年度の学校の重点的な取組み

- (1) 人とのかかわりを大切にして、思いやりのある子どもを育てる学校づくり
 - ① 道徳の授業を系統的・計画的に実施し、自他を大切にする子どもを育てる。
 - ② 人とのかかわりを通して好ましい人間関係を構築し、人権を意識した行動習慣の徹底を図る。
 - ③ 基本的な生活習慣を身に付け、規範意識と社会に貢献しようとする精神の高揚に努める。
- (2) 自ら積極的に学び、認め合う授業を通して、確かな学力を身に付ける学校づくり
 - ① 確かな学力の定着を目指し、基本的な事柄を繰り返し丁寧に指導する。
 - ② 主体的・対話的で深い学びの実現、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
 - ③ 家庭と連携し、毎日の家庭学習の習慣化を図る。
- (3) 自らを鍛え進んで健康な体づくりをする子どもの育成を目指す学校づくり
 - ① 子どもの体力の向上を目指し、縄跳び週間や持久走週間を活用する。
 - ② 走力や投げる力の向上を目指し、体育授業の改善を図る。
 - ③ 子どもの危機回避能力の向上を目指し、安全教育プログラム等の活用を図る。
- (4) 地域との連携を強化し、地域から学び、地域に誇りをもつ子どもを育てる学校づくり
 - ① コロナで中断していた体験活動を再開する。
 - ② 保護者や地域の人材を活用した新たな実践を開発する。
 - ③ 保護者・地域と連携した学校行事や地域行事を推進する。

2 自己評価の総括

- (1) 豊かな心の育成
 - ① 年3回のふれあい月間を活用して、「いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」に基づき、学級ごとに目標を決めていじめの撲滅に取り組んだ。
 - ② 自分の考えを表現することに重点を置いて問題解決的な授業改善を図り、自分の考えを表現できる子どもの育成に取り組んだ。
 - ③ 出前授業など、外部人材を活用して体験学習の充実を図った。

- ④ 家庭科クラブ、バドミントンクラブでは、積極的に地域の人材を導入してクラブ活動の充実を図ったことで、子どもが意欲的に取り組んでいた。
- ⑤ 道徳授業地区公開講座では講師を招いた講演会を実施し、子どもの健全育成を図るための工夫について、学校・保護者・地域が共に学ぶことができた。
- ⑥ 児童会によるあいさつ運動では、自発的に運動に参加する子どもが増え、気持ちの良いあいさつが校内に響いていた。
- ⑦ 全校朝会において児童委員が月目標を発表することにより、子ども一人一人が生活目標を意識して、学校生活を送れるようになった。
- ⑧ チャイム着席が習慣化するなど、「ふっさっ子生活スタンダード」を意識した指導により、学習規律の定着がみられた。

(2) 確かな学力の向上

- ① 各種学力調査の結果を分析し、子どもの実態を考慮したグループ編制を行うなど、算数における習熟度別少人数学習を全学年で実施した。
- ② 東京ベーシックドリルを活用し、わかりやすい授業を目指して授業改善を図った。
- ③ 子どもが主体的に参加し、考えを深めることができる授業改善の必要性を、全教員で共有することができた。
- ④ 自ら積極的に学び、問題解決力を発揮する子どもの育成を目指し、年6回の研究授業を中心とした校内研究による授業改善を図った。
- ⑤ 休み時間や放課後には個別指導を積極的に行い、学力の底上げを図った。
- ⑥ 夏季休業期間にサマースクールを4日間実施し、基礎的な事柄の習熟を図った。
- ⑦ ICTを効果的に活用した授業改善を進め、子どもの学習意欲の向上がみられた。
- ⑧ タブレットを活用したドリル学習が習慣化し、家庭学習でも取り組む子どもが増えた。

(3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 縄跳び週間及び持久走週間では、全校児童が参加し、体力向上を目指すきっかけとなった。
- ② 体力カードの活用により、子どもの運動への意欲を高めることができた。
- ③ 体力測定の結果分析では、全学年通じて持久力と瞬発力に課題が見られた。
- ④ 体育の授業でタブレットを取り入れるなど、ICTを活用した授業改善に取り組んだ。
- ⑤ 地域安全マップ作り、不審者対応訓練、避難訓練などを通じて、子どもの危機回避能力の向上を図った。

(4) 特色ある学校づくり

- ① 季節ごとの自然観察や稲作体験等、自然体験活動を積極的に行った。
- ② 地域に伝わるお囃子や古典楽器演奏など、日本の伝統・文化理解教育を推進した。
- ③ 都の起業家教育や防衛省の日米文化交流等、他機関と連携した体験活動も推進した。

- ④ 横田基地内にある小学校との文化交流を通して、共生社会の重要性について学んだ。
- ⑤ 1年生からの英語活動やALTとのふれ合い活動など、国際理解教育を推進した。
- ⑥ スイミングスクールを活用した着衣水泳やサマースクールにおける高校生の補習支援等、CS委員のコーディネートによる取組みを継続して行った。
- ⑦ 学校ブログやCS通信、学年・学級便り等で、教育活動の広報活動を積極的に行った。

3 自己評価に対する改善策

(1) 豊かな心の育成

- ① あいさつ運動については模範となる高学年の育成もねらいの一つとし、引き続き児童委員会を中心として子ども主体で行っていく。また、学年を問わず、児童委員会の取組に賛同して協力する校内の雰囲気を醸成する。
- ② いじめ・不登校対策では、校内委員会を中心に情報共有を図り、SCやSSW・教育相談室等と連携しながら、新たないじめや不登校の未然防止に向けた取組みを継続して行う。
- ③ 学校支援地域組織を活用し、地域の方と連携して体験学習等の充実を図っていく。

(2) 確かな学力の向上

- ① 学力向上委員会を中心に各種学力調査の結果を分析し、子どもの実態にあった学力向上策を提案・推進する。また、子ども一人一人の課題に向き合った支援方法について分析・検討し、実践していく。
- ② 休み時間や放課後等、個に応じた指導を積極的に行い、基礎・基本の定着を図る。
- ③ 毎日の家庭学習の習慣化を目指すとともに、家庭学習におけるタブレット活用や読書習慣の定着も目指していく。
- ④ 家庭学習を計画的に毎日行い、欠席時のオンライン授業やドリルを活用した「学びの日常化」を進める。
- ⑤ 授業のスタンダード化を進め、子どもに問題解決型の学び方を身に付けさせることで、自力解決する能力を身に付けさせる。
- ⑥ ふっさっ子スタンダード等を活用し、子どもの学習モラル向上の指導を継続していく。

(3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 子どもが体を動かす機会をできるだけ多く設定し、縄跳び・持久走などのカードを活用した意欲向上も図っていく。
- ② 体力測定等の結果を分析し、子どもの実態にあった授業改善や体験学習の導入を図る。
- ③ 専門家を招いた体育授業を行うなど、知識・技能の向上につながる運動の方法を学び、体力の向上を図っていく。

(4) 特色ある学校づくり

- ① 学校支援地域組織を活用して、地域人材を講師として招聘し、地域の伝統文化の体験活動や防災教育を実践していく。
- ② 地域と共に創り上げた活動を、今後も持続可能な活動となるように指導計画に位置付けるなど、カリキュラムマネジメントを推進する。
- ③ 横田基地内の学校との国際交流を継続的に行い、国際理解教育を推進する。
- ④ 子どもの健全育成を目指したPTA行事や地域行事には、教員の積極的な参加を促していく。

4 学校関係者評価の総括

(1) 豊かな心の育成

- ① 「子どもは楽しく学校生活を送っている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が96%、地域が100%と、大変高い割合であった。
- ② 「子どもはあいさつが良くできている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が82%、地域が100%と向上した。あいさつ運動をはじめとする取組みをさらに工夫・改善し、自らすすんで気持ちの良いあいさつができる子どもを育てていきたい。

(2) 確かな学力の向上

- ① 「子どもは学習に意欲をもって取り組んでいる」という項目では、保護者の肯定的評価が78%、CS委員が87%と割合がやや低い。また、「先生は授業をわかりやすく教えている」という項目では、保護者の肯定的評価が90%、CS委員も100%と、高い割合を示している。今後も授業力向上に努めていきたい。
- ② 「毎日の家庭学習が身に付いている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が83%とやや厳しい。今後も家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を目指し、方策を工夫していく。

(3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 「早寝・早起き・朝ご飯・歯みがきの習慣が身に付いている」という項目では、保護者の肯定的評価が82%と、やや低い割合になっている。各ご家庭に協力を依頼し、子どもの健全育成への意識向上を図っていく。

(4) 特色ある学校づくり

- ① 「学校と保護者・地域との連携・協力がとれている」という項目では、保護者の肯定的評価が93%、地域が100%と高い。PTAやCS委員会の取組みが、子どもの豊かな学校生活の実現につながっていることがわかる。
- ② 「学校公開や様々な行事等を通して、子どもの様子を知ることができる」という項目では、

保護者の肯定的評価の割合が99%、地域が100%と割合が高く、学校・保護者・地域が信頼関係と協力関係で結ばれていることを実感できる。

5 学校関係者評価に対する改善策

(1) 豊かな心の育成

- ① 2学級ある学年は、毎年クラス替えを行う。固定しがちな人間関係をリセットすることで、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、新たな人間関係を構築させる。
- ② 単学級の学年には、副担任制度を推進する。また、担任も毎年変わることを原則とする。さらに、英語教育ではALTとの会食やイングリッシュ・カフェを推進し、協調性やコミュニケーション能力の育成につなげる。
- ③ 「ハッピータイム（縦割り班活動）」や体力テスト・全校遠足等では、異学年交流を活発に取り入れ、相手を思いやる優しさと、寛容な心の育成を図る機会とする。
- ④ コミュニティ・スクール10周年を迎え、保護者・地域との連携を更に強化し、子どもの豊かな学びの機会の創出と地域との絆づくりを推進する。
- ⑤ 保護者・地域による計画的な読み聞かせ活動や、団体貸出による図書環境の充実を図るなど、読書活動の充実を通して、子どもの知的・感情的な成長につなげる。

(2) 確かな学力の向上

- ① 校内研究では学びのプロセスを意識した授業づくりを心掛けるなど、子ども主体の学習活動が展開されるよう手立てを工夫してきた。今後は、自ら課題を発見し、見通しをもって問題解決に取り組む姿を目指し、授業改善に取り組んでいきたい。また、ICTを効果的に活用しながら、あらゆる教科で問題解決学習を推進する。
- ② 学習習慣の定着に課題を抱える子どものために、「ふっさっ子の広場」と連携して放課後の補習教室への参加を促し、家庭学習の習慣化につなげる。
- ③ 平日の放課後に、地域人材を活用した補習教室を新たに開設し、学力の底上げを図る。
- ④ サマースクール（夏季補習）では、高校生ボランティアによる指導の充実を図る。
- ⑤ 家庭学習では基礎的な事柄の習熟とともに、自主学習ノート等、子ども自身が選択した課題にも低学年の段階から取り組ませ、自主的な学習態度の育成を図る。

(3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① ゲストティーチャーとして専門家やアスリート等を招聘し、運動能力の向上を図る。
- ② 運動週間として全校で取り組む縄跳び・持久走を、1学級一実践に位置付け、カード等を活用しながら年間通して取り組み、体力の向上につなげる。
- ③ 運動の日常化のため、ゲームを取り入れたもの（アルティメット等）に取り組む。
- ④ 安全教育を総合的な学習の時間に位置付け計画的に実施するとともに、安全教育プログラムを活用して、子どもの危機回避能力の向上を図る。

(4) 特色ある学校づくり

- ① 福生市の英語教育推進事業を活用し、1年生からの英語活動の授業の充実を図る。
- ② 学校地域支援組織を活用して地域の方に協力していただき、地域の伝統文化の体験活動を継続して行う。
- ③ 横田基地内の小学校との交流活動を継続して行い、我が国や外国の文化を尊重する姿勢を培うとともに、お互いの良さを認め合える寛容な心の育成を図る。
- ④ コミュニティ・スクールを活用して、学校地域支援組織の活性化を図り、体験を中心とした教育活動の充実を図る。
- ⑤ 教員と保護者、教員と地域との協力関係を深め、連携して子どもの健全育成を図る体制を充実させる。

6 総括的な学校評価

(1) 豊かな心の育成

- ① 「いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」に基づき、クラスごとにふれあい月間の目標を決め、年間を通じて取り組むことができた。登下校時、校外での子どものあいさつに課題があり、児童委員会であいさつ運動を行ってきた。今後も、方法を工夫して継続する。
- ② いじめ未解決0件、不登校0名を目指し、次年度も教育相談室等と連携を図り、毎週開催する校内支援委員会を中心に、特別な支援を必要とする子どもへの対応を充実させていく。

(2) 確かな学力の向上

- ① 文科省学力学習状況調査の結果では、各教科で全国の平均を超えることができなかった。次年度も、基礎学力の定着を図るとともに、子どもが主体的に取り組む問題解決型の授業研究を実施し、授業改善を図っていく。
- ② 学習規律の確立を目指して、ふっさっ子スタンダード等を活用した指導を継続していく。
- ③ 家庭学習では、基礎的な事柄の習熟とともに、自主学習ノート等、子ども自身が選択した課題にも低学年の段階から取り組ませ、自主的な学習態度の育成を図る。
- ④ 英語教育の推進を図るとともに、放課後学習教室や補習を充実させていく。

(3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 運動能力調査では、瞬発力と持久力に課題がみられた。次年度も引き続き、子どもの体力の向上を目指して授業改善に取り組んでいく。また、休み時間に運動の場を設定するなど、運動に親しむ機会を増やし、体力向上につなげていく。
- ② 安全教育を総合的な学習の時間に位置付け、計画的・系統的に学習することにより、子どもの危機回避能力の向上を図る。

(4) 特色ある学校づくり

- ① 本校の恵まれた環境を生かし、環境教育や国際理解教育、日本の伝統・文化理解教育を推進し、子どもの豊かな学びの実現と健全育成を図っていく。
- ② コミュニティ・スクールとして、学校支援地域組織を活用し、体験活動等を中心とした教育活動の充実を図っていく。
- ③ 学校・家庭・地域が連携した学校づくりを目指して、コミュニティ・スクールを核とした学校運営の充実を図っていく。